

## 多様なパートナーとの希少種・普通種保全

## 活動場所

NEC我孫子事業場内の森林及び池



## 活動目的

企業内敷地に生息する絶滅危惧種のおオモノサシトンボの保全とゼニタナゴの野生復帰を目的に取り組んでいる。自然環境の中で様々なステークホルダーとの連携を通じ、希少種と普通種が生息できる環境の復元を模索するとともにSDGs達成に貢献する。

## 活動内容

NEC我孫子事業場内には、利根川の氾濫原から派生した湧水池がある。2009年から手賀沼水生生物研究会とNECの協働で池と周辺に生息する希少種・普通種の保全活動に取り組んでいる(累計活動数100回超)。

## ① 保全活動の概要

## 1-1 おオモノサシトンボの生息環境の整備

- ・ 外来種対策：池内に生息する外来種の特徴に合わせた駆除（駆除釣り、産卵防止ネット、定置網、電気ショッカー、上位捕食魚(ウナギ)の活用、池干し等）。これらの対策による10年以上に及ぶ知見と毎回駆除した個体数を集計しデータ管理してきたことで、時期や気象条件および外来種の繁殖状況に合わせた効果的な活動が可能となり、外来生物の低密度管理に繋がっている。
- ・ 植生帯の改善：アメリカザリガニの低密度管理による水草の復元（地域で野生絶滅したガシャモク含む）に取り組む。また、池周辺の樹木剪定により池の陽当り改善にも努める。

これらの活動により、10年連続で当該種を確認。直近では池の複数地点に生息ポイントが増え効果を感じている。

## 1-2 ゼニタナゴの野生復帰

池干しで大量に発見されたインガイ(関東では激減)を保全するとともに、二枚貝を産卵母貝とする地域絶滅種ゼニタナゴの野生復帰を行う。ゼニタナゴは系統保存されてきた利根川水系の個体を譲り受け、約7年間事業所内の人工池で生育してきた。2021年、ゼニタナゴを野生復帰するための移植放流を湧水池で実施。

## ② 様々なステークホルダーとの連携

- ・ 年1回振り返りの場として、ダイアログを開催。日本トンボ学会および千葉県生物学会有識者、魚類研究者、地元我孫子市や千葉県生物多様性センターなども交え、活動成果の確認と今後の取り組みについて意見交換。
- ・ コロナ前は年1回我孫子市民への公開日を設け、観察会や外来魚駆除釣りを提供。
- ・ 直近1年間では、環境省外来種ワーキンググループの現場視察や法政大学ボランティアの受け入れを行い、産官学の連携や成功事例を共有。また、若者向け生物多様性の学びの場提供に貢献。

## PRしたいポイント

◎希少種普通種の保全のために、毎回駆除した外来種個体数を集計しデータ管理している。これにより、時期や気象条件・外来種の繁殖状況に合わせた効果的な活動が可能となっている。

◎様々なステークホルダーとの連携により、産官学の連携や成功事例共有、若者向け生物多様性の学びの場提供に貢献している。

## 活動効果、今後の展開 等

- 絶滅危惧種のおオモノサシトンボの生息を確認、ゼニタナゴの野生復帰のための放流を実施
- 外来種の低密度管理を維持。